



© 2018 フジコ イトウ All Rights Reserved.

## 中小企業でもできる持続可能な社会づくりへの貢献

京（みやこ）のアジェンダ21フォーラムは、1998年に市民・事業者・行政がパートナーシップのもとで持続可能な社会づくりを進めるために作られた組織です。これまで、中小企業や学校でも取り組める環境マネジメントシステム「KES」の創設や、家電の省エネラベルの取組などを行ってきました。設立から20年たった現在は、2015年に国連で採択された2030年までの目標「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成を目指して、様々な取組を進めています。

その中には、いくつかの企業等がチームを作って、地域の環境活動を行う「京都環境コミュニティ活動（KESC）」があり、活動開始から10年がたっています。そのチームには、本杉工機さんも参加され、エネルギーについて小学校で出前授業を行う「環境エネルギーチーム」、クルマに関係する企業や団体が小学校で出前授業を行う「交通環境学習チーム」、屋根などに地域で寄付を集め、市民共同発電として太陽光パネルをつけた幼稚園などで、環境かみしばいを手作りして上演する「環境かみしばい学習チーム」の他、小学校の学校林の保全活動を行う「里山保全チーム」があります。この里山保全チームの活動場所では、祇園祭の厄除けちまきなどに使う「チマキザサ」が生えていますが、かつての一大産地であった花背などの京都市北部でササの一斉開花・枯死があり、その後シカの食害などの影響で出荷できない状態が続いています。この活動場所のササを保全することが、絶滅の危機から守ることにつながるようになりました。

一方、KES登録事業所が生物多様性保全のための取組を行う「KESエコロジカルネットワーク」では、葵祭で使われるフタバアオイや源氏物語にも登場するフジバカマ、祇園祭で飾られるヒオウギ、東山の地名が種名の由来となっているキクタニギクなど、京都の文化にゆかりがあり、今は希少になってしまった植物を自社で育成し種の保全を行っており、参加事業所は学校も含めて226事業所にのぼっています。その結果、増えたフタバアオイを上賀茂神社へ返納して葵祭に使われたり、東山の「菊溪（きくたに）」でのキクタニギク再生事業の苗として使われるなど、生き物と文化の保全に役立っています。さらに、取組内容を他の様々な団体等が行う地域の生物多様性保全活動への参加などにも広がっています。

また、日本三大祭のひとつ、祇園祭のごみを減らそうという「祇園祭ごみゼロ大作戦」にも当初から参画していますが、企業ぐるみでのボランティア参加や協賛・寄付をしている所も多くあります。

このような中小企業でも環境や社会に役立つ取組が可能ですし、その機会も増えています。そのことは、世界中で持続可能な社会を目指すSDGsの達成に貢献していると言えます。ぜひ何かできることがないか探してみてください。よろしくお願いいたします。



KESC 環境エネルギーチームの出前授業

上賀茂神社での葵奉納式

**REPAIR FACTORY**

(有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-66-6254